

門。藩士大音氏の臣。初め田中躬之の門に學んで、歌學の志厚く、號を蒲園というた。一時失錯の事があつて、金澤から脱走し、名を改めて方介といひ、京都に出て大國隆正の門に入り、次いで近江の八幡に住し、安政二年十月十八日同地に歿した。

ヤマシタゴウ 山下郷 能美郡の古郷名で、和名抄に『山下、也萬之多』とある。白山宮莊嚴講中記録に、『建長六年甲寅當國司通成、依八田郷庄號並山下郷、地頭時光請所之沙汰、白山御神與正月八日御出門云々。』とある。加賀志徴に淺野茂幹の説としていふ。山下郷は今の石川郡山島郷の一部であらう。山下は山上に對する名であるから、和名抄に也萬之多としたのは誤で、也萬之毛を正すとすべく、その也萬之毛を誤つて山島になつたと見える。もと能美郡の管郷であるが、比樂河の河床を變じた後に石川郡になつたのであらうと。

ヤマシタジンジャ 山下神社 江沼郡大聖寺なる山下下に鎮座する。天照大神を祀り、もと神明宮というた。慶長五年前田利長が大聖寺城を屠つた時、眞言宗慈光院の五世覺賢を神明宮の別當たらしめた。

ヤマシタナホトモ 山下向與 通稱小膳・所太夫。寶曆三年養父吉左衛門の遺知百五十石を襲ぎ、享保十五年亂心して知行を召上げられ、俸十人扶持を受け一門御預となり、明和元年歿して斷絶した。

ヤマシタマチ 山下町 金澤の町名。文政四年二月郡地の一部を町奉行の裁許に屬せしめた時、卯辰村領に山下町の町名を起した。山ノ上町に對する名稱である。

ヤマシタメンテン 山下免田 三宮古記正和元年又は曆應二年に山下免田の名が見える。山下は、能美郡山下郷即ち後の石川郡山島郷なるべく、宮丸の垣内に免田といふのがあるからそれを指したものであらう。

ヤマシタモエモン 山下茂右衛門 初名大學。父勤兵衛の長子で、四百石を分かち領した。寛永八年御小將組に班し、十年前田光高に附屬したが、二十年磯見半右衛門の爲に、切支丹なることを告發せられ、吟味を受けたけれどもその實がなかつた。後大學名を茂右衛門に、禪宗を法華宗に改めたが、改宗を不都合と認められて祿を沒收せられ、次いで扶持方五十石を賜はつた。

ヤマシナ 山科 石川郡富樫庄に屬する部落。郷村名義抄に、往古は伏見村というたがあるが、官地論長享二年高尾城攻の條に『伏見・山科・淺野・大衆目に陣を取る。』といひ、天正十一年八月前田利家の印書には、『二十八町五段半二十五歩山科村・伏見村』とある。然ればもと兩村で後に合併したのであるまいか。今は伏見新があつて伏見がない。寶永誌に、山科村領の内八幡に芋掘藤五郎が住したとあるが、これは俗説に過ぎぬ。又山科地内伏見川の下瀬橋を中心に、上流下流各百米に亘る間には、七十八種の有孔虫類・貝類・海膽類などの化石を含みて鮮新統の代表的化石産地を現出し、その河床にまた多數の窟穴の存在を見る。昭和十五年十二月文部省から天然紀念物として指定せられた。

ヤマシナキヨウアン 山科教安 長安の子。初め御醫師として五十人扶持を受け、享保十年四百五十石を祿せられたが、同年歿。子萬吉早世して家系斷絶した。

ヤマシナサンノウジンシヤ 山科山王神社 石川郡山科に鎮座する。式内等舊社記に、『山科山王神社。富樫郷山科村鎮座。今稱山王。舊社也。』とある。明治以後八坂社といひ、同四十年山科神社に改めた。

ヤマシナサノウバヤシ 山科山王林 官地論に、長享二年山本國正入道が山科山王林に陣取つたとある。山王林は、今の石川郡山科村の社地であらう。この社は後世山科山王神社と稱して居た。

ヤマシナチヨウアン 山科長安 御醫師で、延寶九年加賀藩に仕へ、祿六百俵を受け、元祿元年歿した。長安は求仁齋と號し、寛文八年日本古今人物志序を作つてゐる。

ヤマシナトキツグ 山科言繼 山科言繼は朝臣で、大永から天文にかけて、白山七社の惣長吏澄辰と親善であつた。是を以て天文十四年澄辰が尾添村民を助けて白山嶺上諸堂造營を認める論旨を得んとするや、言繼は大に之が爲に盡力した。加賀敷地天神の神主等徴、祇陀寺の宗賀書記の如き、天文中訴訟の用務を帯びて上洛するもの、皆山科家を通じて好果を得んと努めたのも、亦白山長吏の鑿に倣うたものである。是等のことは言繼卿記に見える。

ヤマシナホアン 山科補安 了安の子。初め五十人扶持を受け、享保十九年新知三百五十石を領し、寛保元年四十五歳を以て歿。

ヤマシナヤマ 山科山 石川郡山科に在る。三州名蹟誌に、この山に昔金澤城を築いた時用ひた白壁の土があつたが、今は絶えてないと記する。

ヤマシナリヨウアン 山科了安 在京の御醫師で六百俵を受け、正徳五年歿。子補安を経て、三代萬次郎の時早世斷絶した。

ヤマシマゴウ 山島郷 石川郡の郷で、游政時代では相川・相川新・竹松・上安田・北安田・平木・成・村井・村井新・宮丸・徳光・米永・小上・上柏野・下柏野・荒屋柏野・長島・福留・四・屋・五影堂・内方新保・安吉・福永・上島田・番田・水島・源兵衛島・向島・寄新保・矢頃島・大竹・吉田漆島・森島・運上島・松任(町)の三十四ヶ村一町が含まれて居た。山島郷の一部分は古郷の能美郡山下郷であつたのであらう。

ヤマシロイモジ 山代鑄物師 ↓イモジ鑄物師。

ヤマシロオホキジンジャ 山代大堰神社 江沼郡山代に鎮座する式外の舊社である。祭神不詳。三代實録に貞觀十八年七月廿一日授加賀國山代大堰神從五位下。』とあり、式内等舊社記には、『山代大堰神社。國史記載社也。山代村地内山中川河端鎮座。今社殿廢絶。』と記するが、現時は復興して居り、單に大堰神社と稱する。

ヤマシロオンセン 山代温泉 江沼郡山代に在る。山代温泉に澡浴したこと文獻に見えたのは、今枝家譜に、正保四年二月今枝直恒が江戸で病を發したとの報があつたが、當時利常は山代に在つたから、今枝直治後近はその地に赴き、暇を請うて東武に赴いたとの